

シャープにおける品質管理教育と QC 検定

シャープ株式会社
CS 推進本部 戦略推進室
参事 高木美作恵

1. はじめに

2005 年に創設された QC 検定は、品質管理に関する知識を客観的に評価する制度として、全国各企業、団体、高校・大学で受け入られています。当社に於いても他社比較のレベル把握や、社外の資格認定に挑戦することで社員の品質管理に関する学習意欲が高まり、実践に役立ってるなど、多くの効果が得られています。社内の品質管理教育に QC 検定が役立っている事例をご紹介します。

2. QC 検定の創設

2005 年、日本規格協会より「QC 検定」創設の話があり、日本企業にとって品質人材のレベルアップにつながるとても素晴らしい取組であるといち早く検定に協賛する企業として賛同致しました。

特に嬉しい魅力として、一つは、品質管理に関する初めての社外検定であり、客観的にレベルの把握ができること。二つ目は、社員が品質管理に関して、社外資格に挑戦する機会が増え、自己啓発にもつながることでした。

3. 品質マネジメント研修体系

QC 検定創設の準備をされている頃、社内に於いても、品質教育体系の見直しを行っていました。当時の当社の品質教育体系は、技術レベル別教育と、階層別教育に大別し、更に専門技術と管理技術をレベルⅠ～Ⅳに分けていました。全社の品質管理知識の底上げを図る目的から、研修とその後のスキル確認を行う社内の資格認定を組合せ、社員のモチベーションアップを図りました。

4. 社内資格（クオリティエンジニア制度）立上げ

そんな社内資格の中でもクオリティエンジニアの資格制度は、品質管理の知識を幅広く浸透させるために始めたものです。

この資格制度の体系は、初級・中級・上級からなり、初級は、“自分の担当業務における品質課題について、アドバイスを得ながら解決するのに必要な品質知識を有している。”中級は、“自職場における品質課題を自身が中心となって解決するのに必要な品質知識を有している。”上級は、“品質知識を熟知しており、発生する問題のほとんどを解決でき、適切な改善活動を指示・指導することができる”と、しています。

5. 社員のモチベーションアップにつながった認定制度

社内の資格制度は、社員にとって資格取得に向けて努力し、結果が出ることで、確実にレベルが上がっていることを実感できるなど、社員のモチベーションアップにつながりました。

特に初級については、開発・技術・生産技術・生産、品質部門の全社員を対象に、取得を義務付けたことにより、eラーニングや自己学習によって、社内のモノづくりルール、品質工学、信頼性工学、品質管理一般、統計の基礎など幅広い知識を習得し、認定試験への挑戦意欲を高めることができました。

6. 品質人材に役立った QC 検定

社内の資格認定はもとより、「QC 検定」への挑戦は、全国レベルの資格認定とあって、社員にとっても大変魅力的なものになると確信し、QC 検定と社内の資格認定とのリンクを図ることにしました。つまり、社内の資格認定と QC 検定のレベル確認を行う必要があり、第1回 QC 検定内容を確認することになりました。その結果、当社のクオリティエンジニアの中級は、試験内容的にも QC 検定の1級レベルであることが確認できました。

そこで、QC 検定1級を習得すると、クオリティエンジニア中級をみなし合格とし、社内の資格認定を行いました。

7. 自己啓発で QC 検定に挑戦

QC 検定とリンクすることで、品質管理の勉強を自ら進んで行う社員が明らかに増えました。加えて、人事制度の中にあるキャリアアップ制度にも「QC 検定1級・2級」を登録し、合格すると報奨金が得られるようにしたことも QC 検定に挑戦する意欲を高めています。

また、当社では、全社員が活動している小集団活動（R-CATS 活動）の教育体系の中にも統計解析や信頼性工学、品質工学、ISO など多くの専門別コースを設けて実施しています。全社全部門の社員を対象にしていることから、営業・サービス・事務スタッフ部門の社員が QC 検定に挑戦し、2級合格者も多くいます。

8. おわりに

最近では、学生時代に品質管理の勉強を行い、QC 検定の資格を取得している新入社員も見かけます。モノづくりメーカーにとって、品質管理に関心を持ち、勉強している学生の入社は、貴重であり、活躍の場を広げるためにも大変心強い存在です。

以上